

公民科（政治・経済）学習指導案

令和6年10月15日（火）6校時（14：05～14：55）

指導者 今島 寿樹

教室 2A 教室

1 単元名 第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 3節 1 戦後日本経済の発展

2 単元の目標 個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次の資質・能力を身に付けることができるようにする。

・政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深める。経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深める。現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。

・民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現する。市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。

・現代日本の政治・経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。

3 生徒と単元 2年A組 38名（男15名、女23名）

進学を希望する生徒が大半のクラスであり、授業者の問いかけに対して積極的に発言する生徒が多く、グループワークを活発に行うことができる。一方で中学校までの基本事項の定着はばらつきがあるため、学び合いを重視して授業を展開する必要がある。

本単元は日本経済の重要分野であり、共通テストを見据え、日本経済の歩みの流れを理解させたい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。</p> <p>・経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。</p> <p>・現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取っている。</p>	<p>・個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>・個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>・個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p>	<p>・現代日本の政治・経済について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>

5 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	どうして日本が、世界に類を見ない高度経済成長を果たすことができたのか考察する。	① 戦後の復興策と朝鮮戦争によって高度経済成長に入っていく流れを理解できる。		① 戦後、生産設備の3分の2が空爆などによって破壊された状態からどのようにして復興そして高度経済期に入っていくことができたのか関心を持ち、学習に臨んでいる。
1 【本時】	国際収支の天井によって経済成長ができなくなった理由とそれをどう克服したのかを考察する。		② 高度経済成長を継続できた理由を判断できる。	

6 本時の計画

- (1) 本時の目標 国際収支の天井が原因で、高度経済成長の途中で、経済成長ができなくなった理由と、それをどのように克服したかを考察し表現することができる。

(2) 本時の指導過程

(A) 知識・技能 (B) 思考・判断・表現 (C) 主体的に学習に取り組む態度

	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> どのようにして高度経済成長期に入っていくことが可能になったのかを確認する。 【全体】 本時の課題を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を閉じて考えさせ、生徒の発言を全体に共有し、展開へとつなげる。 	
	課題：国際収支の天井が原因で、それ以上の経済発展を高度経済成長の途中でできなくなったが、それを、どのように克服したのか。		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> 高度経済成長前半期の内容を授業プリントで理解する。 【個人】 国際収支の天井によって高度経済成長が不可能になった経緯とそれをどのように克服したのか考察する。 【グループ】 高度経済成長の要因を確認する。 【個人】 高度経済成長が終焉を迎えた理由と二度の石油危機を経験したのにも関わらず、安定成長期に入っていくことができた理由を考え、相手に伝える。 【ペア】 授業内容を踏まえた上で共通テスト（センター試験）の過去問を解く。 【全体】 	<ul style="list-style-type: none"> 「学び合い」の意義について確認する。 机間指導を行い、判定のポイントを教えすぎないように周囲の生徒との協働的な話し合いを促す。 話し合いに参加できない生徒に対し、ヒントとなる既習内容に触れ、スムーズな活動になるよう支援する。 クロムブックを活用し、過去問の正解率を通し、どのくらい理解できたのかを振り返らせる。 円安・円高について理解できてなさそうな生徒に対する声かけを行い、全員が意見を形成できるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際収支の天井によって経済成長ができなくなった理由とそれをどう克服したのかを考察し、表現できたか。 【B】
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> 授業の振り返り 【全体】 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめを振り返るとともに円安・円高の説明を加え、発展的な学習を促す。 	

- 教科・科目[政治経済]
授業者[今畠寿樹]
指導者[高校教育課指導主事 岩谷宣行]

●「研究授業について」

① 授業者から

授業を見ていただきありがとうございます。今回 ICT の活用ということで、普段使用していないパワーポイントを使ったり、Google Chrome で理解度を測ったりということ考えた。授業の内容はいつも通り。良い授業とは、楽しくて分かる授業と考えている。それを果たす授業。今回の研究授業に向けた科会で指導案の内容は多いのではないかという意見をもらったが、確かに若干多かったかもしれない。学習指導案については書き方が分からず、岩谷先生に熱心にご指導いただいた。

② 参観者から

・生徒の反応が良く、普段からの授業が展開されていた。今お話しされていた感想通り、楽しく分かる授業が展開されていた。「もう終わり」という生徒の感想が印象的だった。難しい内容を専門知識に裏付けられた手腕で楽しく教えていたのがすごい。

・同じ科目を受け持っている。いつもよく練られた授業構成や資料となっている。後々生徒自身の振り返りにも使え、学習の定着を図り受験にも臨める資料も配付されていて、完成されたフォーマットだと感じている。用語の確認も的確。本日の授業については、専門が歴史ということもあり、流れに注目しながら参観した。自身であれば、輸出品やなぜそのような輸出品が製造されたかなどの背景、輸出した結果としての外交関係の変化等々に触れたかと思う。

・生徒に一度学んだことが残っていたのがすごい。中学校の既習内容も重なっていたかと思うが、すごい。ゴロや覚え方を用いるなど、受験を意識した働きかけも行っていた。いろいろ盛り上げる仕掛けがあったが、同じ1時間の中で確認テストを行うなど定着も図っていた。自身の授業でも模試対策とその解説を行っているが、1回の授業内で全てできていたのがすごい。何が違うか考えた結果、授業の中で同じことを2度言わないと気づいた。その点も素晴らしい。

・活発に発言して活躍する生徒たちの様子も素晴らしかったが、国語や歴史などの他科目で学んだことや生活知がうかがえる発言があった。そのような発言を引き出したり共有したりする場面が多く、知識の統合や具体化が生徒主導で図られているように思えた。

・自身がメインで使っているICTはパワーポイントで進捗を確保するために使用している。たぶん自分が授業をすれば、倍は時間がかかったと思う。途中生徒の発言を広げることができたかなと思うが。
→[授業者]授業の進度上は今回の拾い方で限界だったかと思う。

・今回のペースで教科書の内容は終わられるのか。
→[授業者]本来なら授業はもっと早く進みたい。夏季課外も利用してぎりぎり収まるかというところ。

・自身の公民の授業だと聞く時間が長い印象があったが、生徒全員が参加している授業で、普段の様子が垣間見えた。プリントには本時の目標等が載っていたので、生徒は何を学習するか分かっていたとは思いますが、板書がいっさいなく新鮮に感じた。ICT を活用する場合、双方向の学習を提示することが目的の一つでもあるので、問題を解くだけでなく、共通テストの問題に取り組みながら共有できていたのが良かった。「説明できる」ことが目標の一つだったが、最後の文章化する作業は本時内ではできなかった。ただ課題として次回提出時に見とり指導できるとは思う。プリントに載っている情報を発問に利用したのはあえてか。指示の不足と見る

べきか、どちらか。

→[授業者]プリントの資料で不足する情報を、やり取りで補足しようとした。

・公民の授業は高校以来だが楽しく参加した。生徒がすぐ挙手をして、前向きにアウトプットしようとしていたのが印象的。プリントへの書き込みの指示等をしていなかったが、生徒たちはプリントに線を引いたり書き込んだりと、臨み方が定着していた。

・楽しく参観した。最初に本時の目標を明確に宣言していたのが良かったが、毎時間やっているのか。

→[授業者]やっていない

・核となる問題を解けるといいと、目標を提示していたと思ったので、最後にまとめも見なかった。具体的にはどのような解答が出てきたら、授業者としては正解だったのか。

→[授業者]国際収支の問題は複雑な問題が多いので、簡潔な問題を提示すれば良かったかもしれない。

・模試等の成績も保証しながら、どのように授業を展開しているか気になっていた。身を乗り出して発言することもだが、そうでなくとも授業者の発言に生徒たちが頭の中で一生懸命考えているように見えた。既習事項の問いかけがちよくちよく出てきたりもしていたので、そのあたりでも知識・理解の定着が果たされているのかなと感じた。これまでの今畠先生のスタイルにICTをうまく活用させているように見えた。生徒のノートがないということの懸念や思うところがあれば教えてほしい。

→[授業者]効率が悪く、進度が遅くなる。他校での実践経験から、ノートを取らずとも理解は得られていると考えている。生徒の中で理解・定着があるなら、必要ないと感じた。プリントを使うときも、ストーリーを重視して記憶に定着させようとしている。プリントのほうがストーリーも作りやすい。

・盛り上げる中心的な生徒も活躍していたが、全員参加している授業だった。集中する時と賑やかに盛り上がる時のメリハリが際立っていた。最後の知識・理解の定着を図る ICT 利用も、共通テスト問題ということで選択解答制であったので、自教科の数学では活用法が限定的になるかもしれないが、参考に考えていきたい。引き込まれる授業で勉強になった。

③ 指導主事から

・今畠先生、先生方、熱心な協議ありがとうございました。同じ資料を用いても、同じ授業にはならない。プリントには答えが書かれているので、生徒によっては全く授業を聞く意味を感じないこともあり得る。しかし、そうはなっていないところに授業者としての力量がある。本日の授業冒頭で明確に目標を述べていた点が良かった。その時点で一度解答を書かせてみてもよかったかもしれない。おそらく何も書けない生徒もいただろう。その上で、授業後に改めて書かせ、生徒の変容を見て取ることもできたかもしれない。普段していない班活動も本時に成立していた、ということは普段からやろうと思えばできるということ。また、生徒の答えに対し、「方向的にはあっているが、経済学的には間違っている。でもいい。」といった前向きな声かけも良かった。

・ICT を活用した深い学びが、今回のテーマだが、「深い学び」はどこに設定されたとみればよいか。

→[授業者]授業を受けたうえで、ICT で共通テストの問題を解く、という作業や展開に深い学びが設定されている。

・資料プリントであえて情報不足となっている部分、中学や1年次での既習内容に絡めた発問で「考える」ように設定されていた。おそらく全員が完全な理解はしていない。この後の全体会でもお伝えする予定だが、自己指導能力の養成という点からも ICT 活用を考えていただきたい。